

# 人生を拓く

34

菅野 東さん(93)  
喜代子さん(89)

|| 6西 ||

東さんの祖父母は福島県郡山の出身。6歳の時、父幸吉さん(昭和4年、65歳で逝去)が病死。母マサさん(同14年、67歳同)は、当時旧樺太(現ロシア・サハリン)に移り住んでいた姉を呼び戻し農業で一家を支えました。

4人姉弟を抱えての生活は苦しかったようで、第二尋常小学校高等科を15歳で中途退学。村内の農家に奉公に出、3軒で働いたそうです。

「仁田原さん(当時東8号に居住)に行かんかったら、なんも分からなかった。万蔵さんの親は『たばこはダメだ』『酒飲むな』『働かんきゃダメだ』といつもも言っていた。あの人がオレを指導してくれた。言うことはみんな聞いたよ」。

昭和19年、21歳で志願して中国・旧満州へ出征。復員後、25歳で隣家・宮崎家の二女、喜代子さん(当時22歳)と結婚して一男一女を育てました。

「『喜代子を嫁にもらってくれんか』って何回言われたか分からんよ。オレのこと、一番頼ってたね」と母ルイさん(81歳で逝去、没年不詳)から請われて娶ったそうです。「おとなしくて、働き者で、よっくお米担いでたね」。

喜代子さんの祖父母は愛媛県出身。武家育ちの祖母は「『行ってきます』『ただいま』と言わんかったら叩かれた。挨拶で手をつかんかったら家に入れてくれんかったよ」



よ」としつげが厳しかったそうです。

「ホントに立派だった」という父筆一さん(50歳で逝去、没年不詳)は、1928(昭和3)年から20年間村議会議員、村議会議長を務め、1947(同22)年、戦後設立した旧北立農協で組合長も務めました。「うちの人は自分のことより人の世話ばっかりしてきた」と言い、苦勞を重ねた経験から頼まれて数多く就職を世話するなど、東さんは周りからの信頼も厚かったよう。優良米生産農家として農協から2度も表彰を受けた米づくり名人。長男(61)一家3人と同居して、喜代子さんは今も一家の台所を預かる主婦業をこなしています。

## 俳句

静けさの部屋に一輪梅の花  
老梅やこぼれやすきに咲き続く  
変顔であやす4才春うらら  
フクシマに「福」呼び戻す梅の花  
鬼やらひ痛む腕にも豆打って  
試験の子願いは一つ寒の明け  
大寒や我的手包む母温し  
寒の入り施設の友はまた逝きぬ  
春めくや空の青さに深呼吸  
知ってるよ無口な君と梅の種  
断捨離と整理整頓春を待つ  
立ち止まるスーパリーの片隅梅の花  
板塀のへのへのもへ字春近し  
朱の映えて春日に憩う消防車  
春隣エンジン音の高く鳴り  
丸顔は母似のこけし春近し

本田 咲  
佐々木 りえ  
山内 みゆ  
小林 ろぼ  
高橋 公花  
杉山 ひろのり  
保科 なほ  
徳光 吐苦  
杉山 りつ  
こばやし 星来  
横田 則子  
若田 久  
高瀬 潤  
石澤 清宏  
三島 智  
若田 郁

